

---

# らぶ れちゅ

餅亜実

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

らぶ れちゅ

### 【Nコード】

N4821L

### 【作者名】

餅亜実

### 【あらすじ】

私の王子様。

「みさ君」と呼ばれていた男の子を捜し

雪時雨学園に入学した、羽島 美佐南。

でも再会するにはまだまだ試練がありすぎる！

運命の初恋を探し、学園で大暴れ。

ちよつと切なくて、でも笑顔のあるドタバタ学園ストーリー！。

運命の王子様との再会は・・・？

## 第1章 「初恋は遠し」 (前書き)

「王子様」というキャラ設定で描いてみました。  
お気に召されれば読んでください。

## 第1章 「初恋は遠し」

「美佐南

俺のお姫様はお前だよ。」

そういつてくれたあのひとはどこに居るのだろうか・・・

あの日交わした約束を今でも覚えているだろうか・・・

今でも。

平成22年 4月10日

私、羽島美佐南（はしま みさな）は

今日から中学1年生です。

私が今日から通う、雪時雨学園は私の王子様「みさ君」が通っているらしい。

私がこの学園に来たのもその人に会うためだ。

「・・・会えるかな」

これから始まる学園生活。

楽園だと思っていた。

しかし私はその学園に来て

新たなる経験を抱えることになる

ぴびびびびppp

「・・・だああああ！！寝坊！！」

朝から大慌てで学校に向かった。

「遅刻するっっ！！」

———  
どんっ！

「うっわ！！」

ガシャン！

「あたたたっ・・・あ！ごめんなさいっ！！」

私は勢いよく謝った・・・

その拍子に後ろに来た誰かにぶつかってしまったのだ。

「あだ！！ま、また！すみませんっ！！」

・・・そして何らかの異変に気づき始めた。

「・・・男子生徒ばかり。てか男子だけ・・・？」

私は急いで案内ガイドブックを見た。

《我が校は今年から共学になりました。》

「。。。。」

今年からって書いてあったから入ったんだよね・・・

もしかしたら・・・まだ女子が入ってきていない?!

・・・嘘————!!!!!!

## 第1章 「初恋は遠し」(後書き)

美佐南の学校には秘密が?!

果たして王子とは会えるのか?

見てくださった人ありがとうございます!

これからもよろしく願います!

**第2章「物語が始まった。」（前書き）**

久々の第2章です！ご覧ください。



## 第2章「物語が始まった。」

「ど、どうしよ！親友の名前もあだ名しか覚えてない！！」

うわっわ！！もう無理！！

「ギブ・あつーっ！ぷう！？！」

いきなり髪の毛を引っ張られ涙目になってしまった。

「いった！ちよつと！！」

「はあ？座り込んでるお前が悪いんだろ？」

ヴ・・・そうなんだけどさ。

いきなりの態度にちよつとイラついたが事実は事実だ。

「・・・ごめんなさい。」

そして私は全力ダッシュで体育館まで行った。

その後アイツは何かを拾った。

「・・・あ。アイツなんか落としてたってんの。」

まさかアイツがアレを拾っていたとは・・・

まさかでも思っていなかった。

《キーンコーンカンコーン》

「ふぁー……やっと終わった……。」

私は始業式が終わり教室移動をしていた。

この学校は男子生徒が898人、女子が2人という最悪な結果になっていた。

「……おい。」

頭の上から声が聞こえてきた。

「うわぁ!!--!」

私はびつくりして転んでしまった。

「なななあつなに？」

「……はっ。鈍くせえ」

今さっきぶつかった男の子だった。

とつか髪をひっぱった奴。

「お前今さっきなにかおとさなっかたか。」

いきなり訳のわからない質問に戸惑った。

「え……。。」

私はかばんをアサくってみた。

「あ……。あれ」

どうした……。ことか。

携帯がナ—イ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

「え!—うそ!!—なんで?!!—」

「……。やっぱりコレか。」

——ニヤッ

げげええ!!—!!

### 第3章「やっぱり運命?!」(前書き)

久しぶりの更新です。

この小説はもうほんとにゆっくり、ぼちぼち勧める気ですので  
長に

見ていただけると嬉しいです。

### 第3章「やっぱり運命?!」

第3章「やっぱり運命」

・・・ど、どつしよう。

こんな奴に携帯を・・・携帯を盗られた!!

「いや、盗ってねえし・・・おまえが落としてっただけだろうが」

うわwww心を読まれた?!

・・・そつだ。名前だけ聞いておこつ。

というかそれ以前に返してっって言っていないよね。

「・・・携帯返して。まあ拾ってくれたのは・・・ありがとう」

「!・・・ふうん。ちゃんといえるんだ。ホレ」

その男の子は携帯を私の丁度胸に当たるくらいの位置に投げた。

「つつ!・・・ねえ、名前は?」

「はあ?」

男の子は怪訝そうな顔をする。

「だ・・・から、名前。」

舌がきちんと回らないせいで、言葉がはっきりいえない。

「……………ぶつ。俺今さつき生徒代表で名前よばれたぜ。聞いてないのか？」

寝てたよ。その時寝てたよ。ぐーすかと寝てました。

「まあお前ずっと寝てたもんな。」

知ってるなら聞くなよ。ていつかなんで知ってるのさ。

「俺ずっとお前の後ろに座ってたんだけど。」

げ。そんなのってアリ？

と云うか早く名前聞かないと。

「……………で名前は？」

「んじゃそつちから名乗れよ。人に聞く前に自分が名乗るのは基本だぜ」

どこの外国人。

「……………羽島美佐南。」

すると男の子は体の動きを止めた。

「……………は、しま。美佐南……。」

「どづしたのよ。早く名乗りなさい。」

あ、少し口調がまずかったかな。

「・・・、あ、ああ。俺は梶本<sup>かじもと</sup> 美佐希<sup>みさき</sup>。」

・・・あれ。この人も「みさ」がつくのか。

でもこの人が「みさ君」じゃないだろうし。

でも一応覚えとこう。

「聞き覚えはないか？俺の名前。」

「うん。ない。「みさ」の所はよく聞き覚えがある。」

男の子は一瞬悲しそうな顔をした。

でもすぐに今さっきみたいな意地悪い顔をしていった。

「そうだな。おまえみたいなのが知ってるわけないか。」

むかつく言い方だな。

蹴飛ばしたくなってきた。

「・・・っおわ！！いきなり何するんだ！」

思いのままに蹴りを入れようとしたがさすがに男子・・・。

中々やるな。

「……………とにかく私は帰る。あんたなんかと関わりたくない。」

「ふーん。そういうこと言うのか。じゃあな」

梶本美佐希は音を立てずに廊下からすつと姿を消した。

「……………そういうえば、みさ君も音を立てない男の子だったよなあ」

私はそんなことを思いながらその廊下を後にした。



### 第3章「やっぱり運命?!」(後書き)

美佐南って実は結構もてるですよ。

本人はすごい鈍感ですから全然気づかないんですけどね。

次回はいつになるやら。。。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4821/>

---

らぶ れちゅ

2011年10月7日03時52分発行